国立民族学博物館

石井中子

国立民族学博物館は，大阪府吹田市千里の万国博記念公園のなかにある。利久ねずみ色の建物が，公園の緑の中に建っていた。敷地面積4万平方メートル，建築延面積3万平方メートル，地上四階建である。

当館の機能については，案内書に次のようにのべられている。

「国立民族学博物館は，博物館として一般公衆に公開し，観覧に供されるものであるが，同時にそれは，国立大学共同利用機関と呼ばれるものの一種であって，学術研究機関でもある。この博物館のなかには，数十人の教授，助教授そのほかの教官が，日日民族学の研究を続けている。展示場にみられる世界民族文化の展示内容は，それらの研究の成果にほかならない。わが国では，博物館は文化財を収蔵展示するところとかんがえられていることが多いが，この民族学博物館に収蔵されているものは文化財というよりは学術研究資料を主とするものである」。

昨年の九月末日当館を訪れた。まず二階の展示場をのぞいてみた。展示は地域展示と，クロス・カルチュラル展示とから構成されている。地域展示は，オセアニア，アメリカ，ヨーロッパ，アフリカ，西アジア，東南アジア，東アジアである。クロス・カルチュラル展示では特定の地域単位ではなく，全世界の文化を通覧し，比較する視点から，音楽，言語をとりあつかっている。音楽ではヨーロッパとはことなる，特にインドネシアのガメラン，日本の雅楽などの合奏の諸形態を例に，アジアの楽器を紹介している。ここではみせるばかりでなく，映像音響資料を特別に設計された試聴用のブースで，押しボタン操作によりビデオ・カセット・テープにおさめた，諸民族の生活や文化に関する資料を上映し，また言語や民族音楽をきくことができる。小さな世界旅行をしてきたあと，映像音響資料室の鈴村さんからお話をうかがった。今展示されているものは収集された資料の十分の一であること，標本資料75,793点，映像音響資料14,311点，文献・図書資料（和・洋）90,171冊，和洋雑誌2,235種，マイクロ写真資料199種とのことである。この膨大な資料を小人数で整理し，目録をつくることは大変だと言われながらも生々と仕事にとりくんでおられた。環境もよく，仕事も楽しそうでちょっぴりうらやましいなあと思いながら黄昏時博物館を辞した。